

1. 内政

▼新内閣結成に向けた動き

- ・22日、フィアト自由民主党党首は、対立が伝えられていたブラホドニウク民主党第一副党首との関係における自らの非を認め、同第一副党首と和解した旨発言。同日、同第一副党首は、フィアト内閣組閣に賛成する用意がある旨発言。
- ・22日、ルプ民主党党首は、民主党と自由民主党が新内閣結成に関し合意に達した旨発言。同日、自由党離党議員7名はフィアト内閣組閣に賛成する意向を表明。一方、ギンプ自由民主党党首は、フィアト新内閣が発足した場合、自由党は野党に移る旨発言。

▼憲法裁判所による首班指名の違憲判断及びレアンカ首相代行の任命

- ・22日夜、憲法裁判所は、汚職への関与の疑いによって不信任されたフィアト自由民主党党首を首班に指名する10日付大統領令は違憲であり、汚職関与の嫌疑のない他の前閣僚を首相代行に指名する必要がある旨の判断を宣告。23日、自由民主党は憲法裁判所の判断は著しく政治的であるとする声明を発表。同日、民主党は同判断を受け入れるとしつつ自由民主党との多数派形成を目指す意向である旨の声明を発表。同日、ギンプ自由民主党党首は、元与党連合AEI各党は連立形成に向けた交渉の席に戻るべきである旨発言。
- ・23日、ティモフティ大統領は、25日付でレアンカ副首相兼外務・欧州統合相を新内閣が組閣されるまでの間の首相代行に任命する旨の大統領令を发出。同大統領は、憲法裁判所の判断を尊重するとして、憲法規定に基づき首班指名するための協議を実施する意向を表明。25日、レアンカ首相代行は、同職就任に際する記者会見において欧州統合路線及び国内改革の継続の重要性を強調。
- ・25日、ティモフティ大統領は、フィアト自由民主党党首の首班指名は憲法に違反していないとして、憲法裁判所の解釈は政治的である旨発言。26日、フィアト自由民主党党首は、憲法裁判所の判断を不服として欧州人権裁判所に提訴した旨発言した一方、再び首相候補となる意向はない旨表明。

▼ルプ議会議長の罷免

- ・25日、議会は、共産党の発議によるルプ議長(民主党党首)の罷免決議案を共産党、自由民主党及び一部の自由党議員の賛成により採択。同日、フィアト自由民主党党首は、新政府発足に向け民主党、ギンプ党首以外の一部自由党及び無所属議員との協議を継続する意向を表明。
- ・26日、ルプ民主党党首は、同罷免はフィアト党首による復讐であるとして、繰上げ総選挙の実施を求めている共産党の発議に賛成した自由民主党及び一部の自由党議員はモルドバの欧州統合路線に反する旨非難した上で、民主党は今後も

新政府発足に向けた協議に参加する意向である旨発言。

- ・26日、議会は、新議長選出まで議会副議長が同職務を代行することを規定する旨の自由民主党発議による議会規定改正案を60名の賛成をもって可決。同日、自由党議員は、議長権限の移行に関する決定は不法であるとして議場を退出。

▼その他

- ・25日、共産党及び自由民主党は、18日のグリーン新検事総長の選出に関し議員の過半数の賛成が得られていなかった可能性があるとして調査を要求。同日、議会は、同選出の状況に関し調査を行う特別委員会の設置を決定。
- ・25日、自由民主党議員は、選挙制度変更の問題を精査する議会特別委員会の設置を議会に提案。

▼世論調査

[公共政策研究所]

- ・次の日曜日に議会選挙が実施された場合の政党支持率
共産党:32.5%、自由民主党:12.6%、自由党:10.5%、民主党:6.8%等
- ・調査は4月6日から21日にかけて1,100名の成人を対象に実施。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・26日、ストラタン経済・金融・統計研究所所長は、モルドバの2013年経済成長率を2%～5%と予想している旨発言。

3. 外政

- ・20日、フィアト首相代行は、来訪したプロタセヴィチ欧州議会副議長と会談し、モルドバ・EU関係及びモルドバの欧州統合問題等に関し協議。プロタセヴィチ副議長は、モルドバ政府が欧州路線を継続する必要性を強調。

▼世論調査

[公共政策研究所]

- ・近日中にEUへの加盟の是非を問う国民投票が実施された場合の回答
賛成:50%、反対:30%
- ・近日中に関税同盟への加盟の是非を問う国民投票が実施された場合の回答
賛成:52%、反対:23%
- ・調査は4月6日から21日にかけて1,100名の成人を対象に実施。

4. 浴ドニエストル

▼デンツァOSCE議長国特別代表の来訪

- ・23日、カルポフ国家再統合問題担当副首相代行は、モルドバを訪問したデンツァOSCE議長国特別代表と会談し、モルドバの内政状況、移動の自由、地域間の経済協力及びベンデル近郊の安全地帯内の緊張状態等の問題に関し協

議。

・24日、カルポフ副首相代行及びシュタンスキ「外相」は、デシツァ特別代表の仲介によりキシナウにおいて次回「5+2」者交渉の準備に関する協議を実施。協議後、カルポフ副首相代行がキシナウとティラスポリの関係は改善しつつある旨述べたのに対し、シュタンスキ「外相」は改善しているとは言

えない旨反論。デシツァ特別代表は、モルドバの内政状況が「5+2」者交渉に影響することはない旨発言。

▼その他

・26日、ドニエストル右岸ベンデル近郊のヴァルニツァに沿ドニエストルが検問所の設置を開始したことからモルドバと沿ドニエストル間で衝突が発生。

**※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)**